

質問に対する回答について
工事名) 磐越自動車道 束松トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	設計関係図書 設計図 軽沢橋 5、7/124 設計図 トンネル 114、122/141 割掛対象参考内訳書 4 頁 支保工費において軽沢橋橋台ウイング及び束松トンネル坑門工の支保工が計上されていません。ご確認願います。	軽沢橋橋台ウイング部の支保工は、土木工事積算基準（令和6年度版）第13編コンクリート構造物10.支保工10-1（6）に記載のとおり、各種型わくの支保工に含まれているため別途計上しておりません。 また、坑門工の支保工は計上しておりません。
2	設計関係図書 割掛対象表参考内訳書の項目名称 支保工費 くさび結合支保工に上部工の支保工数量が記載されていますが、橋台ウイング部の支保工数量が未記載と思われます。ご教授願います。	質問番号1に対する回答の通りとなります。
3	設計関係図書 設計図 軽沢橋 93、111/124 図面 111/124 より④仮栈橋 A 上部工撤去～⑤仮栈橋 A 杭引き抜きの状況において、仮栈橋 A の撤去により存置される仮栈橋 B に手摺が必要となると思いますが、93/124 の仮栈橋 B 数量表 1.1 上部工数量表には 17.5m と記載されています。必要な長さはプラス 14.0m の合計 31.5m と思われます。ご教授願います。	軽沢橋の施工にあたり、仮栈橋 B のみが設置されている期間には、追加で 14.0m の手摺(仮栈橋 A から転用)が必要となります。 交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。

4	<p>設計関係図書 設計図 附帯工 1/29 単価項目 Ds-PuL (S2) -0.30-0.40 の図面記載は、プレキャストコンクリート側溝 300×400×2000 となっています。 この形状の製品は汎用品がないため特注品を想定されているのでしょうか。ご教示ください。</p>	<p>単価項目 Ds-PuL (S2) -0.30-0.40の規格は、正しくは落ちふた式U型側溝（ふた付き）（側溝：3種300B、ふた：3種ふた300）となります。</p> <p>なお、上記の変更に伴い、設計図 附帯工 1/29 Ds-PuL (S2) -0.30-0.40の材料表の数量（10.0mあたり）は、以下の通りとなります。</p> <p>構造物掘削 普通部：土砂 1.89m3 埋戻し A 0.86m3 プレキャストコンクリート側溝 300×400×2000 5.00 本 簡易舗装工 t=50 0.40m2 交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
5	<p>設計関係図書 特記仕様書 25 頁 設計図 軽沢橋 29 頁 「構造物掘削 普通部 A」にて、特記仕様書 25 頁に「A2 橋台上り線側ブロック積部への運搬」と記載がありますが、設計図_軽沢橋 29 頁の材料表では A1 橋台に「ブロック積み 盛土」の記載があります。特記仕様書と設計図で施工場所が異なっておりますが、どちらが正しいかご教示願います。</p>	<p>ブロック積盛土の施工場所は特記仕様書に記載の通り、A2橋台上り線側（施工数量：406.9m3）となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>

6	<p>設計関係図書 質問に対する回答書 12 2 頁 特記仕様書 30 頁 設計図 参考図 2 頁 質問書に対する回答書 12-3 番にて、トンネル掘削「DⅡ-a (H) -AFS-K」に含まれる内容として、「上半部掘削」、「下半部掘削」が含まれると回答がありました。特記仕様書及び設計図_参考図の加背割図では全断面掘削と記載があり、設計図書と回答内容が一致しておりません。回答の「上半部掘削」、「下半部掘削」は「全断面掘削」のことを指しているのでしょうか。掘削方法によってサイクルタイムや単価構成に大きな影響が出るため、内容についてご教示願います。</p>	<p>ご認識の通り、全断面掘削は上半部掘削＋下半部掘削を指しています。</p>
7	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 1、2 頁 7/31 の訂正公告にて、トンネル工の各単価の数量が変更となっておりますが、以下の単価項目の数量について、設計図_トンネル 1,2 頁の数量総括表の数量と一致しておりません。 訂正公告にて修正箇所として記載がございましたが、数量明細表と設計図の数量のどちらが正しいかご教示願います。</p> <p><不一致項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロックボルト工 C (L=3.0m) ・ロックボルト工 C (L=4.0m) ・ロックボルト工 C (L=6.0m) ・ロックボルト工 E (L=4.0m) ・長尺鋼管鏡補強工 注入工 	<p>各項目の数量について、正しくは以下の通りとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロックボルト工 C (L=3.0m) 5,681本 ・ロックボルト工 C (L=4.0m) 3,092本 ・ロックボルト工 C (L=6.0m) 1,236本 ・ロックボルト工 E (L=4.0m) 323本 ・長尺鋼管鏡補強工 注入工 93,600 L <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>

8	<p>設計関係図書 数量明細表 9 頁 設計図 トンネル 2、47 頁 7/31 の訂正公告にて、設計図_トンネル 47 頁の材料表の「再打設ボルト」、「補強工 ロックボルト」の備考に「トンネル掘削（扉部の施工）に含む」と記載があります。「再打設ボルト：8 本」、「補強工 ロックボルト：3 本」の計 11 本は現在、「ロックボルト工 A (L=2.0m)」の「D I -K2-S」パターンにて計上されております。現在、設計図_トンネル 2 頁の数量総括表における「ロックボルト工 A (L=2.0m)」の「D I -K2-S」の数量は 77 本となっておりますが、正しくは「66 本」となり、単価数量は「174 本」となるのではないのでしょうか。 設計図と数量総括表で内容に差が出ておりますが、どちらが正しいかご教示願います。</p>	<p>ロックボルト工 A (L=2.0m) の数量は、174本となります。</p> <p>D I -K2-S ・ 本体 66本 計 66本</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
9	<p>設計関係図書 数量明細表 15 頁 設計図 トンネル 23 頁 7/31 の訂正公告にて、「長尺鋼管鏡補強工 注入工」の数量が「93600L」から「92040L」に修正されております。設計図 トンネル 23 頁を確認したところ、全体本数：520 本、注入量：180.0L/本となっており、数量は「93600L」となります。設計図の内容と数量明細表の内容が一致していませんが、どちらが正しいかご教示願います。</p>	<p>質問番号 7 に対する回答の通りとなります。</p>

1 0	<p>設計関係図書 特記仕様書 25、26 頁 構造物掘削 普通部 D において、軟岩 A は、発破による砕岩でしょうか、大型ブレーカによる砕岩でしょうか。ご教示ください。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>
1 1	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 134/141 大型コンクリートブロック積工 大型コンクリートブロック積(練) 控 70cm について、材料費は、設計図に記載の割付図に基づいて算出しているか、もしくは、標準型ブロック価格から算出しているかご教示ください。</p>	<p>設計図 トンネル 134/141 大型ブロック積み 材料表に記載の通りとなります。</p>
1 2	<p>設計関係図書 設計図 軽沢橋 82/124 大型コンクリートブロック積工 大型コンクリートブロック積(練) 控 290cm、および 340 c m について、断面詳細図に「コンクリート打継」の表示がありますが、胴込めコンクリートはこの表示ごとの打設を想定されているのでしょうか。ご教示ください。</p>	<p>設計図書に記載の通りとなります。</p>
1 3	<p>設計関係図書 設計図 軽沢橋 82/124 大型コンクリートブロック積工 大型コンクリートブロック積(練) 控 290cm、および 340 c m について、胴込めコンクリートの打設はコンクリートポンプによる打設か、打設機械無しか、いずれを想定されているかご教示ください。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>

1 4	<p>設計関係図書</p> <p>①金抜設計書 5 頁</p> <p>②設計図 トンネル 122/141</p> <p>③数量明細表 5 頁</p> <p>①において、「継目工 I 型」の設計数量が、70mに訂正されましたが、②、③では、33.9mのままとなっています。標準部：33.855m、明り巻打継目部：35.148mの合計：69.003m²より、設計数量は 69mとなるのではないのでしょうか。ご確認お願いします。</p>	<p>令和7年8月22日掲載の「質問に対する回答について⑬」質問番号1に対する回答の通りとなります。</p>
1 5	<p>設計関係図書</p> <p>設計図 トンネル 122/141</p> <p>終点側坑門工のコンクリート A1-3 662.2m³ に使用する生コンは、貫通したトンネルを通行して起点側坑口側からの運搬を想定しているかご教示ください。</p>	<p>9月5日に掲載予定の参考積算条件書をご確認ください。</p>
1 6	<p>設計関係図書</p> <p>設計図 トンネル 1/141</p> <p>数量総括表に非常駐車帯妻部型枠の数量が記載されていません。非常駐車帯妻部型枠の費用の計上先をご教示ください。</p>	<p>令和7年8月8日掲載の「質問に対する回答について⑭」質問番号5に対する回答の通りとなります。</p>
1 7	<p>設計関係図書</p> <p>金抜設計書 10 頁</p> <p>設計図 トンネル 33/141</p> <p>「鋼アーチ支保工 DI-S」について、単価項目名称に「(H)」の表記がありませんが、設計図の 支保パターン図、諸元表、鋼アーチ支保工材料表に「HH-100」と記載があります。当該鋼アーチ支保工は、高規格材の指定なののでしょうか。ご教示ください。</p>	<p>設計図 トンネル 33/141 の材料表に記載の通り、高規格材の指定となります。</p>

18	<p>設計関係図書 設計図 工事用道路 8/18 工事用道路工 C 迂回路設置図 数量内訳表 防護柵工 仮設Gr(H鋼基礎)の摘要欄に「リース品」の記載があります。仮設防護柵(H 鋼基礎)の設置期間(リース期間)をご教示ください。</p>	<p>工事用道路工Cにおける防護柵工 仮設Gr(H鋼基礎)の設置期間(リース期間)は、10ヶ月を想定しております。</p>
19	<p>設計関係図書 ①特記仕様書 49、50 頁 ②設計図 附帯工 23/29 ②で仮設防護工 仮設防護柵設置 A1(Y)および、A2(Y)について、①特記仕様書 29-37 に記載のない「目隠しネット」、「チューブライト」等が図示されていますが、仮設防護柵以外の全てを当該単価項目に計上するのでしょうか、ご教示ください。</p>	<p>仮設防護工 仮設防護柵設置・撤去の単価項目において計上する対象物は、設計図 附帯工 23/29 仮設防護工 詳細図に示す材料表に記載の通りとなります。</p>
20	<p>設計関係図書 特記仕様書 54、55 頁 設計図 軽沢橋 89/124 工事用仮栈橋工 撤去工 A、および B について、「乗入盛土(RC-40)」は撤去せず存置するのでしょうか。 撤去する場合、盛土材料 RC-40 の処理方法についてもご教示ください。</p>	<p>「乗入盛土(RC-40)」は撤去せず存置を想定しております。なお、契約後、変更が生じる場合には、別途監督員と協議するものとします。</p>

2 1	<p>設計関係図書</p> <p>①金抜設計書 9 頁</p> <p>②設計図 トンネル 2/141</p> <p>①において、「ロックボルト工 C (L=3.0m)」の設計数量が、5,681 本に訂正されましたが、②の数量総括表(2)では、5,676 本のままとされており、支保パターン、上下半別の内訳がわかりません。設計数量の内訳をご教示ください。</p>	<p>「ロックボルト工 C (L=3.0m)」の数量は、令和7年8月22日掲載の「質問に対する回答について⑱」質問番号3に対する回答、及び質問番号7に対する回答の通りとなります。なお、支保パターン別の内訳は、後日HP掲載予定の訂正公告をご確認ください。また、上下半別の内訳は、設計図書を参照のうえ、算出ください。</p>
2 2	<p>設計関係図書</p> <p>①金抜設計書 10 頁</p> <p>②設計図 トンネル 2/141</p> <p>①において、「ロックボルト工 C (L=4.0m)」の設計数量が、3,097 本に訂正されましたが、②の数量総括表(2)では、3,108 本のままとされており、支保パターン、上下半別の内訳がわかりません。設計数量の内訳をご教示ください。</p>	<p>「ロックボルト工 C (L=4.0m)」の数量は、令和7年8月22日掲載の「質問に対する回答について⑱」質問番号4に対する回答、及び質問番号7に対する回答の通りとなります。なお、支保パターン別の内訳は、後日HP掲載予定の訂正公告をご確認ください。また、上下半別の内訳は、設計図書を参照のうえ、算出ください。</p>
2 3	<p>設計関係図書</p> <p>①金抜設計書 10 頁</p> <p>②設計図 トンネル 2/141</p> <p>①において、「ロックボルト工 C (L=6.0m)」の設計数量が、1,243 本に訂正されましたが、②の数量総括表(2)では、1,244 本のままとされており、支保パターン、上下半別の内訳がわかりません。設計数量の内訳をご教示ください。</p>	<p>「ロックボルト工 C (L=6.0m)」の数量は、令和7年8月22日掲載の「質問に対する回答について⑱」質問番号5に対する回答、及び質問番号7に対する回答の通りとなります。なお、支保パターン別の内訳は、後日HP掲載予定の訂正公告をご確認ください。また、上下半別の内訳は、設計図書を参照のうえ、算出ください。</p>

24	<p>設計関係図書</p> <p>①金抜設計書 10 頁</p> <p>②設計図 トンネル 2/141</p> <p>①において、「ロックボルト工 E (L=4.0m)」の設計数量が、323 本に訂正されましたが、②の数量総括表(2)では、330 本のままとなっており、支保パターン、上下半別の内訳がわかりません。設計数量の内訳をご教示ください。</p>	<p>「ロックボルト工 E (L=4.0m)」の数量は、令和7年8月22日掲載の「質問に対する回答について⑱」質問番号6に対する回答、及び質問番号7に対する回答の通りとなります。なお、支保パターン別の内訳は、後日HP掲載予定の訂正公告をご確認ください。また、上下半別の内訳は、設計図書を参照のうえ、算出ください。</p>
25	<p>設計関係図書</p> <p>金抜設計書 15 頁</p> <p>「長尺鋼管鏡補強工 注入工」の設計数量が、92,040L に訂正されましたが、「同 打設工 (L=12.5m)」の設計数量：520 本に変更が無いので、1 本当たり注入量が、177L/本に変更されたということでしょうか。ご教示ください。</p>	<p>質問番号7に対する回答の通りとなります。</p>
26	<p>設計関係図書</p> <p>設計図 本線 13～27/35</p> <p>設計図(1/6)本線 13～27/35 横断図に下部路床の数量が明記されており、集計すると約1,330m³になります。これに伴う費用は、どの項目に含めればよろしいでしょうか。</p> <p>また、下部路床に用いる材料は、購入材で計上してよろしいでしょうか。</p>	<p>費用の計上先は、貴社の施工計画に基づきお考えください。</p> <p>なお、下部路床に使用する材料は現地発生材を想定しております。</p>

27	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 114/141 設計図(3/6)トンネル 114/144 起点側坑門工一般図に「構造物掘削 普通部C 材料表」が示されていますが、埋戻しの数量が計上されていません。埋戻しは必要としないと理解してよろしいでしょうか。</p>	<p>構造物掘削の埋戻しは、裏込め工 A1として計上しております。</p>
28	<p>設計関係図書 設計図 トンネル 122/141 設計図(3/6)トンネル 122/144 終点側坑門工一般図(1)に「構造物掘削 普通部D 材料表」が示されていますが、埋戻しの数量が計上されていません。埋戻しは必要としないと理解しよろしいでしょうか。</p>	<p>構造物掘削の埋戻しは、裏込め工 A1として計上しております。</p>
29	<p>設計関係図書 特記仕様書 25 頁 特記仕様書 25 頁 29-6 構造物掘削及び構造物裏込め工の作業内容から「軽沢土砂仮置場に仮置きする土砂は、捨土敷均しを必要としない。」と理解します。軽沢土砂仮置場は、敷均しをしなくても土砂を仮置ける広さがあると考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>設計図書に記載の通りとなります。</p>
30	<p>設計関係図書 割掛対象表参考内訳書 「割掛対象表参考内訳書 【共通仮設費】 工事用機械分解組立費(トンネル)」の数量内訳(参考)に「設計図(6/6)参考図 18/45 【参考図】避難連絡坑施工次第図(2)」に示されているロードヘッダ(自由断面掘削機)の費用がございません。後日追記されると考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>割掛対象表参考内訳書に関する質問にはお答えできません。</p>

3 1	<p>設計関係図書 特記仕様書 18 頁 盛土工 A1 の盛土材の仕様について、特記仕様書 19-1 再生材の使用に記載がありませんが、新材を使用すると考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>特記仕様書29-5 盛土工 (1)種別に記載の仕様を満足する材料（新材）を使用ください。</p>
3 2	<p>設計関係図書 特記仕様書 10 頁 設計図 参考図 13 頁 週休 2 日工事に指定されていますが、調査ボーリングの施工も対象になるのでしょうか。参考図の工事工程表に「本工程表は、先進ボーリングを考慮し作成した工程表である。」と記載もありますが、土日を利用して調査ボーリングを行う工程となっていないのでしょうか？</p>	<p>調査ボーリングの施工についても、週休2日工事の対象となります。</p>
3 3	<p>設計関係図書 設計図 参考図 13/45 本工事は令和 6 年度の積算基準を適用すると回答を頂いていますが、参考図の工程表の元になるサイクルタイムは支保工建込が令和 6 年度基準の 20 分、吹付けが令和 5 年度基準の $M \times (N1+N2) \times 1.24/60/10+20$ を使用して算出した結果と思われます。工程計画は別として、トンネル掘削や吹付コンクリートの積算に用いるサイクルタイムの算出は次のいずれに基づけば良いか御教示願います。</p> <p>①全て令和 6 年度積算基準 ②全て令和 5 年度積算基準 ③参考図工程表や施工計画書と同様に令和 5 年度と 6 年度の積算基準の混用</p>	<p>9月5日に掲載予定の参考積算条件書をご確認ください。</p>

34	<p>その他 東北支社管内 土木工事設計材料 単価表 西会津地区と会津坂下地区のどちらを採用されていますでしょうか。ご教示下さい。</p>	9月5日に掲載予定の参考積算条件書をご確認ください。
35	<p>その他 東北支社管内 土木工事設計材料 単価表 吹付コンクリートに使用するセメントについて、土木工事設計材料単価表「普通ポルトランドセメント バラ 超大口(3000t)以上」と考えてよろしいでしょうか。そうでない場合は使用単価名称をご教示下さい。</p>	9月5日に掲載予定の参考積算条件書をご確認ください。
36	<p>設計関係図書 金抜設計書 10 頁 トンネル掘削 DⅡ-a (H) -A FS-Kについて、インバート一次埋戻しの数量または断面の単位数量をご教示下さい。</p>	貴社の施工計画に基づきお考えください。
37	<p>設計関係図書 金抜設計書 13 頁 計測工B 鋼アーチ支保工の応力測定・振動測定 (Y) について、土木工事積算基準に記載がありません。見積り等を採用されているのでしょうか、もしくは準拠している積算基準や要領についてご教示下さい。</p>	積算に関する質問にはお答えできません。
38	<p>設計関係図書 金抜設計書 17 頁 盛土付帯工 吸着層工Aについて、木工事積算基準に記載がありません。準拠している積算基準や要領についてご教示下さい。</p>	積算に関する質問にはお答えできません。

39	<p>設計関係図書 金抜設計書 17 頁</p> <p>盛土付帯工 敷砂工について、木工事積算基準に記載がありません。準拠している積算基準や要領についてご教示下さい。</p>	積算に関する質問にはお答えできません。
40	<p>設計関係図書 金抜設計書 18 頁</p> <p>工事用道路工Cについて、仮設防護柵のリース期間をご教示下さい。</p>	質問番号 18 に対する回答の通りとなります。
41	<p>設計関係図書 金抜設計書 18 頁</p> <p>目隠し板設置A (Y) について、木工事積算基準に記載がありません。準拠している積算基準や要領についてご教示下さい。</p>	積算に関する質問にはお答えできません。
42	<p>設計関係図書 金抜設計書 19 頁</p> <p>上下線連絡路工Aについて、木工事積算基準に記載がありません。準拠している積算基準や要領についてご教示下さい。</p>	積算に関する質問にはお答えできません。
43	<p>その他</p> <p>令和7年8月8日付の質問に対する回答について⑱の2で、仮設防護柵の設置撤去時の運搬は、仮設防護柵工の各単価項目に含まれると回答がありましたが、仮設防護柵の調達場所からの運搬は割掛項目として計上、仮置き場所から設置場所への運搬は仮設防護柵工の各単価項目での計上と考えてよろしいでしょうか。その場合、仮置き場所をご教示下さい。そうでない場合は各単価項目と割掛項目に計上する運搬内容の詳細をご教示下さい。</p>	貴社の施工計画に基づきお考えください。

4 4	<p>設計関係図書 特記仕様書 46 頁 盛土付帯工 吸着層工 A について、吸着シート（マット）の環境基準値に対応可能な仕様は記載されていますが、吸着シート（マット）の重量（単位面積あたり）、厚さはどの位でしょうか。ご教示願います。</p>	<p>特記仕様書29-34 盛土付帯工 (3) 材料に記載の仕様を満足する材料を使用ください。</p>
4 5	<p>設計関係図書 特記仕様書 47 頁 盛土付帯工 吸着層工 A について、『吸着シート（マット）の選定に要する費用については監督員と受注者で協議し定めるものとする』と記載されていますが、これは選定に要する費用のことであって、材料の単価については協議し定めるのか、それとも別なのかご教示願います。</p>	<p>詳細分析試験の結果、条件が異なり材料の選定が必要になった場合における、吸着シート（マット）の選定に要する費用、及び選定に伴い変更となる場合の材料費は、契約後、別途監督員と協議するものとしします。</p>
4 6	<p>設計関係図書 特記仕様書 47 頁 盛土付帯工 吸着層工 A について、『この契約単価には、設計図書及び監督員の指示に従って行う吸着シート（マット）の整正、固定、整形及び仕上げ等吸着層工 A の施工に要する材料・労力・機械器具等本工事を完成するために必要な費用で諸経費に含まれるものを除くすべての費用を含むものとする』と記載されていますが、吸着シート（マット）の固定は、溶着によるものなのか、ピン等による固定なのかご教示願います。</p>	<p>貴社の施工計画に基づきお考えください。</p>